

技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター秋季号<第61号>(平成16年9月15日発行)

巻 頭 言

地域活動と技術士

九州支部副支部長 藤永 正弘 (建設・佐賀)

私は、体験したこと以外では憶測で発言しないことにしているが、持ち前の軽さが災いとなって恥をかく場合も多い。その都度反省し、改めて学習することになっている。これまでの反省から①相手の環境に入る。②問題は私の能力で解決できる範囲であると思ひ込む。③議論に終わらず行動をする。などを常に注意している。

①は相手や所属団体のルールを知り、相手の人となりを知ることに他ならない。この意味から私は多くの団体に所属している。各種学会、各種技術研究会・同好会等の技術的団体の他、歴史・文化、福祉・障害者、街づくり団体、外国交流団体、環境教育関係団体等の各分野に参画している。また、公的委員会にも積極的に参加し、各種審議会・委員会、協議会にも末席を汚している。それぞれの中ではそれぞれの歴史から育まれたルールに従った活動や討議がなされているが、全てどこかで関連し、「ものの見方・考え方」は相通じるものであり、この活動の中で自分の人となりや専門性を十分発揮すれば、社会貢献が出来るものと思っている。②は本業の建設コンサルタント業も当然ながら、全てのことは、相手の私の能力に対する依頼や相談であり、少々苦労しても最終的に結果が出るものが殆どである。従って、物理的に時間や資金が許せばどんな相談も引き受けることにしている。最近某大学の非常勤講師で、環境関係を受け持つと共に、地域活動に力を入れ、地域の公民館活動(教育や街づくり)に強く関わっている。③は目標を定めて、目標に向かって具体的に行動する事を必ず決める。まずは自ら行動し、さらに行動しながら考える。これが何よりの近道であると思う。

いま、日本の政治、行政、教育、産業等は大きな壁にぶつかり、混沌とした状況の中で、行政をはじめ各団体・組織で新しい方策が模索されている。その中の注目は行政改革であり教育問題である。これまで発展してきた多様な価値観は時代が変わったからといって、従来の施策やシステムの改革等では簡単に代わるべくもなく、国民全ての意識変革が叫ばれているのは当然のことである。

私どもの生活単位は(職場・家族・交友等の)個人という単位、家族、職場、地域、行政区、国、世界という単位等様々である。その中でバランスをとった生き方が必要であるが、今まで私は経済活動の中の企業や団体・職場環境に意識的に重点をおいてきた。「生活基盤の原点」は何かと改めて考えれば、私たちは自らの意志で家族をつくり家族の中に身を置き、その家族は生活の場である地域(町内会)の中に身を置いている事を考えた時、それは自分や家族が住んでいる町であり、町の発展(自治)が行政改革の原点ではないかと考え、今後地域活動に力を入れ、地域の公民館活動(教育や街づくり)に強く関わりたいと思っている。

私が住む町では 公民館活動(自治会活動)が再認識されつつある。特に子供会は、各所で発生している痛ましい事件を教訓として、子供は地域の財産であり地域で子育てをする必要性を強く感じ町内会での最重点項目として位置づけている。同時に街づくりの原点は住人の意識改革であり、将来の地域の生活環境改善を自らの分担も含め、自ら企画し提案を行うことで、待ちの姿勢ではなく計画性をもった攻めの姿勢へと意識を変えつつある。住人の一人である技術士は現状分析や問題提起が可能であり、技術に関してリーダーであると共にコーディネータであり情報提供者でもあることは、単に地域社会貢献のみならず、自らの職場や行政の意識を変える事にも通じるものと考えらる。

業務開発裏話

業務開発委員長 松尾 憲一（機械、総合技術監理・福岡）

私が業務開発委員になったのが平成11年、そして、委員長に就任したのが平成13年である。今まで一体何をしてきたのか、どのような実績をあげたのかと思悩むことがある。

確かに、九州経済産業局に行けば、かなりのお役人と気楽に話ができる。建設系委員の企画力と実行力で、九州地方整備局から具体的な業務開発の話が出てきつつある。省庁や保険会社の技術審査の話がふくらみかけている。業務開発は遅々として進まず、促進するのは中々に難しい。他に誇ることができるのは、委員会の構成メンバーが多士済済であり、毎月1回欠かさずに委員会を開いており、必ず議事録を作成して透明度を確保している点である。

このような背景の中で、6月26日、平成16年度第1回合同役員会が開かれた。

業務開発委員会の事業計画として、今年度変更したのは、お付き合いする省庁の枠を広げたところである。すなわち、「今年度は前年度に引き続き、九州経済産業局を主体として、更に国土交通省九州地方整備局、九州環境対策調査官事務所などの国の省庁に接触を図る。」とした。これらの省庁に接触していると、新しく、すばらしい情報が飛び込んでくる。

例えば今年5月、九州経済産業局から「新産業創造戦略の概要」という資料が出た。これは昨年11月、経済財政諮問会議において、「新産業創造戦略」を経済産業省で策定することが決定し、作業を進めてきたという。これを見ると、平成22年（2010年）には、7分野合計で約300兆円の生産額が期待できるという。7分野の中味は、燃料電池1兆円、情報家電18兆円、ロボット2兆円、コンテンツ（映画・音楽・書籍・ビデオゲーム等）17兆円、健康・福祉・機器・サービス75兆円、環境・エネルギー・機器・サービス78兆円、ビジネス支援サービス107兆円とある。そこへ到達するまでの計画がきめ細かに記載されている。この計画書を見ると、何とかできるのではないかという期待が持てる。各地区代表幹事さ

ん、部会長さんにはお届けするので、活用して頂きたい。

九州地方整備局を計画に入れたのは、都市再生の推進を目的に「まちづくり交付金」が本年度創設されたからである。日本技術士会の専門家メンバーが地域のニーズをくみ取って提案書を作成し、地域クライアントと打合せを行い、九州地方整備局に申請する。内閣府での審査の結果認可されれば交付金が出るという仕組みである。九州全域での配分総額は、37億円だといわれている。

また、九州環境対策調査官事務所は、環境専門の九州の窓口である。産官学のコーディネータとしての提案があれば、どしどし持参してみたいと考えている。

従来からの九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（K-RIP）は、昨年、九州全域での専門家技術士の増員を終えた。今年度の専門家派遣事業にはずみがつくことを祈っている。

また、北九州地区での産業技術博物館構想は、地元技術士有志の企画運営からの参画が期待されている。8月から事務所開きも行われる。これも北九州地区での話だが、去年は土壤汚染対策研究会の研究活動が終り、本年度は不動産鑑定士協会と手を組んで、具体的な活動に入るようだ。

業務斡旋の具体的な仕事が決まりはじめてくると、九州在の技術士の中で、誰がその道の権威者であるか分からないという悩みが出てくる。また、短時間に多くの仕事を確実に遂行して頂く専門グループの必要性を痛感している。仕事の内容を想定したいくつかの研究グループを立ち上げる時期にきているようだ。

できない理由を並べるのではなく、前向きに、プラス思考で物事を考え、技術士の皆さんの業務斡旋につながるよう、今後ともじっくりと腰を落として息長く前進するつもりである。

理事会等 概要報告

(社)日本技術士会 理事 小出 剛 (農業・福岡)

I. 平成16年度第1回理事会

(平成16年5月19日)

前号(6月15日付・技術士だより)で概要報告した、四役・常設委員長会議内容が付議され、承認された。

(審議事項)

1. 定時総会提出事案の15年度事業報告及び収支報告
 2. 技術士ビジョン21の決定
 3. 定時総会開催(6月23日)の件
 4. 16年度会長表彰者61名決定
 5. 16年度新名誉会員5名決定。
 6. 技術士業務報酬の手引きについて
- 社会情勢等を勘案した値下げ案及び逆の値上げ意見の両論あったが、採決の結果賛成多数で現行どおりとなった。

この他省略。

II. 第46回定時総会

1. 総会(6月23日15:00~17:00)

- ①平成15年度事業報告及び収支報告について質疑の後、賛成多数で原案通り承認可決された。
- ②技術士ビジョン21が会長から発表された。
- ③総会に続いて、名誉会員の称号授与並びに会長表彰が総会后に行われた。

2. 総会懇親会(17:00~19:00)

文科省はじめ産・官・学から御来賓出席の下、有益な意見交換会となった。

写真は会長表彰者(上野氏、永濱氏、斉藤氏)



九州支部からの出席者

III. 平成16年度第2回理事会

(平成16年7月14日)

(審議事項)

1. 平成18年(55周年)技術士全国大会
実行委員会の設置

16年北海道、17年九州に続き18年は東京で55周年記念大会となる。委員構成は常設委員会及び各部会から推薦の31名を後日決定。

2. CPD 証明特別委員会の設置

国土交通省九州地方整備局での記者発表が発端となったCPD 証明書発行問題に関して、技術士会は来年度からの発行を前提として、各学協会代表を含めた特別委員会を設置した。

3. 講演会・見学会開催補助費運用規則の制定(平成16年4月1日から適用)

各支部、部会毎に予め定められた予算額を限度とするが、次の項目を対象とする。

- ① 講演会における講師(外部、会員共)謝金全額
- ② 技術士会会議室利用不可時の代替会場借料全額
- ③ 見学会時の車両借料、講師謝金の半額
- ④ 配布用資料作成費用の全額

(報告事項)

1. 定時総会開催結果報告

この他省略

IV. 平成16年度臨時理事会

(平成16年7月29日)

(審議事項)

1. 臨時総会(9月29日)の開催について

これは、松並社会員が起した技術士会に対する数々の違反行為の中から①公印不正使用による会長委任状の偽造及び行使。②虚位かつ違法な理事変更登記。③自らを代表理事と名乗り、その旨の名詞作成及び使用。④代表者理事を名乗り、理事としての登録印を使用した訴訟代理人(清水裁判・技術士会側弁護士)解任届の提出。以上4項目について定款11条違反で除名に値すると倫理委員会が議決した事を受け、

これを決定する為の臨時総会開催を臨時理事会に諮ったもの。

原案通り委任状による賛否を含め賛成多数（賛成30名委任状による反対1名・中井理事）

により了承された。

本件は、日本技術士会においても前代未聞の異常事

態であり、会員各位には、臨時総会案内書の内容や支部、部会からの連絡事項を再度ご覧頂き、厳粛に受止めて頂き、臨時総会への出席又は委任状を投函されるよう心から願うものです。

平成16年度第2回全国支部長会議 報告

九州支部支部長 泉館 昭雄（電気電子・北九州）

日時；平成16年7月30日。13時30分～17時30分。

於いて；東京、茸手第2ビル5-A、

出席者；清野会長、小針・鎌田各副会長、竹下専務理事、畠山・大谷常務理事、大島（北海道）、中山（北陸）、辻（中部）、加藤（近畿）、牧山（中四国）、泉館（九州）各支部長、東北支部は川端事務局長が代理出席。他関係者。

はじめに清野会長より、本部議題として臨時総会開催（9月29日予定）の経緯報告を詳しく述べたいとの要請があり、これを了承した。会議予定議題は、1、本部議題 2、支部議題 3、支部報告であったが3、支部報告は、時間切れとなり、懇親会で各支部長から要点が報告された。次回は、中四国支部・広島でH16・11・11日開催する。

1、本部議題

イ、松並理事除名に関する倫理委員会審査結果並びにこれを執行するための臨時総会開催の理事会決定について経緯、背景、結果の詳細報告があった。松並理事に係る倫理上の事象は、以下の4点に集約される。

- 1) 公印の不正使用等による会長委任状の偽造及び行使
- 2) 虚偽且つ違法な理事変更登記
- 3) 代表者理事の記載された名刺作製及び使用
- 4) 代表者理事を名乗り理事としての登録印を使用した当会の選任した訴訟代理人解雇届の提出

なお、技術士会会員には8月10日頃、会長としてかかる事態に至った事をお詫びする文

書と共に、臨時総会開催案内及び倫理審査議決書詳細資料を送付する。

<以下支部長としての見解>

本件は、(社)日本技術士会のありように関する重要な事象です。支部会員には、前記倫理審査議決書資料他を熟読のうえ適切な判断を願うものです。同時に全会員の出席（委任状を含む）を要請します。

ロ、第2回理事会議事 *講演会並びに見学会開催補助金は、各支部・部会ごとに予算枠設定し、使用制約条件を緩和した。九州支部は、年間60万円。⇒活用されたし。

* 会費未納者退会処理中。2年以上未納者で問合せに対し返事なき者。

2、支部議題

イ、支部財政；各支部とも支部活動活性化による事務量増加により、支出増加している。要検討。

ロ、各支部とも技術士会活動の報酬は、ボランティア活動主体で、交通費実費支弁程度。当面は、財政制約から、現状維持となるが要検討点である。

ハ、支部組織；7支部で組織構成、運用等が異なっている。あるべき姿を追求する、次回現状認識を行なう。――⇒昨年10月九州支部提案。

ニ、修習技術者対応；*主に支援対象とする修習技術者は、「修習技術者のための修習ガイドブック（第2版）」での経路2（指導技術者が周囲にいないケース）である。*修習技術者指導報酬金額の設定が技術士会として必要で

ある。会として早急に検討する。

- ホ、ビジョンのアクションプラン作成；当面は、普及・啓蒙活動で、次にアクションプラン作製となる。
- へ、支部名簿作製；各支部の事情に応じて、今後とも作製する。新入会会員に関する情報は出来るだけ本部から提供する。新規合格者に関する情報は従前に変更なし。本部構築中の会員情報システムは、会員履歴情報掲載可能他郵便用ラベル打ちだしも可能。
- ト、その他主要事項；* 支部への契約権限委譲（経理処理能力との関係あり）、* 支部長会議の性格吟味の2件は、継続検討。* 黒岩郁夫（農業）氏逝去報告

支部は、20名程度参加予定

- ロ、第1回西日本技術士研究・業績発表年次大会論文募集一近畿支部長
8月末。大会は、11月27日、奈良。
- ハ、日韓技術士会議参加要請、一中四国支部長、10月26日、米子。申込要。
- ニ、技術士会の組織骨格の変遷について一北陸支部長
- ホ、7月24日、支部CPD、技術者倫理、ビジョン、修習技術者研修、150名参加一九州支部。
- へ、中小企業総合事業団、公募案件書類審査510余件、技術士会一括対応結果報告一九州支部

3、その他

各支部報告は、時間切れで省略。懇親会での非公式報告となった。

- イ、H16全国大会参加要請一北海道支部長一⇒当

行事・会合報告

平成16年度第1回合同役員会

松尾 憲一（機械、総合技術監理・福岡）

平成16年6月26日（土）、本年度第1回合同役員会が商工会議所605号室で開催され、九州各地から45名の役員が参加された。

第1号議案は、平成16年度事業計画（案）であるが、九州支部並びに九州技術士センターとも、5月29日に行われた定時総会の第3号議案と同文であり、既に総会で説明し、承認済みであり省略された。

第2号議案は、常設委員会の事業計画（案）である。

- ・総務委員会：池田委員長 ①全国大会実行委員会の総務委員として開催準備の支援、②IT推進委員会の支援、③修習技術者研修計画と支援、④本部及び他支部との連携強化と目白押しだ。支部全体を見渡した運営に対して皆さんのご協力をお願いしたい。
- ・事業委員会：甲斐委員長 今年「地域産官学と

技術士との合同セミナー」を九州支部で担当実施する年である。12月4日（土）、福岡県中小企業振興センター（吉塚）で開催される。午前中は、日本技術士会の清野会長の記念講演「技術士ビジョン21」がある。

・試験管理委員会：齋藤委員長 今年、昨年度とほぼ同様の体制で試験管理を実施する。

試験監督に当たられる技術士の皆さんにはご協力をお願いしたい。

・業務開発委員会：松尾委員長 官の新鮮な情報を得ながら、業務斡旋の拡大を図る。

・CPD委員会：内山委員長 年4回のCPDが定着してきた。7月24日の中央講座は技術者倫理で固めている。10月23日と来年1月29日の中央講座を予定している。

・普及啓発委員会：津城委員長 受験講座の充実を図りたい。一次講座40名、二次講座40名、口頭講座

50名が目標である。受講者1名の紹介料5,000円を考慮中。

・IT推進委員会：大里委員長 今後の方向として、支部からの情報発信はメール主体に切りかえる。IT推進の第一歩とする。これに関して、各地区代表幹事から種々質問・提言がかなり出ていた。

・広報委員会：棚町委員長 「完戸委員長から引継いだ棚町です。」という自己紹介に始まり、①技術士だよりの年4回発行、②IT推進委員会との密接な協力のもとに、インターネットを活用する広報活動の展開、③部外対象「技術士」PR、CPD対応として、「ホームページ」の活用など、今までの活動に何かを積重ねる気持ちが伺えた。

第3号議案は、地区事業計画（案）であり、福岡、北九州、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島島の順序で、それぞれの地区の発表があった。

特に、北九州地区の事業計画は、毎年ステップアップしており、他地区の先導的役割を果たしてい

る。佐賀地区が示した「技術士は、行政と県民との協働活動の中で、コーディネータ的役割をするものだ。」という定義は、技術士の指標となるものだ。熊本地区では、林博昭氏から加来雄一氏へバトンタッチされた。宮崎地区では、NPO法人の立上げがあり、8月初旬にスタートする。鹿児島地区では、会員講師による月1回の研修会が4年目に入ったという。それぞれの地区での活動は、「継続は力なり」を証明するもので、組織会員の情熱が感じられる。

第4号議案は、部会事業計画（案）である。第1・2・5・6部会の発表があった後、新設の第7部会の田辺部会長が計画発表と意志表明を行った。第7部会の着実な発展とともに、新しい時代に対応する柔軟性を期待したい。

総ての議案審議が終了し、一括して盛大な拍手をもって全議案が承認された。

平成16年度 第2／4期 九州支部CPD研修会

九州支部CPD副委員長 日下部 岩正（建設・福岡）

7月24日（土）福岡商工会議所にて九州支部主催によるCDPD研鑽会が実施されました。九州支部として、A部門、土曜集中（6時間）、4回／年という参加しやすさと効率性を考慮した方法にて実施中で、今回は、次の6題で行いました。特に今回は日本技術士会本部より3名の先生を招き、技術士倫理を中心に講演いただきました。

①「技術士CPD状況について」【A-4】

講師：黒澤兵夫氏（日本技術士会本部理事、事業委員会生涯教育推進実行委員長）

②「技術者倫理とは」【A-1】

講師：杉本泰治氏（日本技術士会本部前倫理委員、科学技術倫理フォーラム代表会員）

③「事例を中心とした技術者倫理」【A-1】

講師：高城重厚氏（日本技術士会本部事業委員、元理事、JABEE基準委員会等委員）

④「情報社会と技術者倫理」【A-1】

講師：黒澤兵夫氏（日本技術士会本部理事、事業委

員会生涯教育推進実行委員長）

⑤「九州における修習技術士の支援」【A-4】

講師：是永逸生氏（日本技術士会九州支部副支部長、本部事業委員）

⑥「技術士ビジョン」【A-11】

講師：小出 剛氏（日本技術士会本部理事、業務委員長、九州支部第5部会長）

今回の研鑽会も盛況で、150名の参加となり、会場の都合で、お断りした方もありました。特に本部よりご足労頂いた3名の先生方には、技術者倫理について、それぞれの立場から、ご講演いただきました。

議題①：我々技術者を取り巻く環境の変化（科学技術の急速な発達高度化は、利用リスクの増大を招く等々）は、技術者に対し、公共的にも技術的にも高い倫理観を要請し、技術者自身も、自己の能力の品質保証をする必要がある。社会情勢も、CPDの証明書を出せば、入札に対するインセンティブ（九

州整備局、広島県庁、和歌山県）を与える等優遇措置を執りだした。

議題②：技術者倫理の歴史から、現在の状況（研究、教育、社会状況）、法と倫理の関係に至る全般の説明をされた。アメリカで出版された「科学技術者の倫理」の翻訳出版を契機とし、数冊の関連書籍の出版が、講演者をはじめ日本技術士会員によるもので、日本技術士会が、日本の技術者倫理のフロンティアとなった。武士道に対する技術者倫理、技術者が現代の技術社会をリードすべきである。技術者倫理3つの条件として、①科学技術と関係づけられていること、②モラル向上の合理的な方法を備えていること、③グローバル（全世界的）な共通性があることをあげられ、なぜ技術者の倫理が必要か①科学技術の危害を抑止する。②公衆を災害から救う、③公衆の福利を推進する。法と倫理は互いに補完する関係にある。〈NSPE基本綱領〉〈ASCE基本綱領〉には、7原則、8義務がある。その中の注意義務を取り出し、カネミ油症事件の例を挙げ、法と倫理の関係を述べられた。

議題③：技術者の成立について、アメリカ、イギリス、日本について説明された。英国では、産業革命（それは流通革命）当時、橋梁技師のテルフォード、トンネル技師のブルネル等が、集まり「英国シビルエンジニア協会」を設立し、自分達で、その資格を証明した。その伝統が現在に至っている。アメリカでは、州ごとに、プロフェッショナルエンジニアの制度を設けた。専門分野の分け方も各州で異なっている。プロフェッショナルエンジニアの名称は尊重されている。日本では、インハウスエンジニア（官の規制）に始まり、建築士、技術士の制度が出来た。

倫理は押しつけでなく日常業務に積極的に取り入れていくものであり、企業倫理と、技術者倫理は矛盾するものではない。技術者が社会的責任を果たすことは、経済的側面、社会的側面、環境的側面をボトムラインとして果たすことである。事例として、大阪大学医学部の製薬会社との関係。アメリカでの9、11同時テロの最近の話題。タイムの表紙を飾った3人女性について（エンロン等）。三菱フソウのトラックの問題等を指摘された。モラル問題で、いろんな観点から意見の不一致の時、アメリカでの1つの例を引き解決法を示された。最後に、誠実に倫理的行動を行い社会に貢献している

企業の株価は連動して上がっていることを示して講演を終わられた。

議題④：急速に進展するIT革命の中で、技術者は如何に技術者倫理を遵守し対応するか具体例を示して、講演された。情報漏洩に対して、如何に無防備か、違法コピーの問題。

ウィルスの問題は、自分だけでなく人にも迷惑を及ぼすので注意が必要。我々で特に注意することは、パッチの要請があれば直ちに実施すること。そこをウィルスが突くことが多い。不正アクセスに対しては、パスワードの管理に注意すること。

急速な情報革命は、法律が追いつかなくて、倫理的な判断が必要で、自分の被害だけでなく、他人に大きな被害を与える。

議題⑤：技術士法の改正により、修習技術者修習制度が制定された、その修習技術者を如何に援助、支援するかについて語られた。日本の技術者260万人中、技術士有資格者5万人を20万人にし、高齢化の傾向にある技術士を、若年化し、アドバイザー的な役割であったものを、産業界の中核にしよう。

「修習技術者のための修習ガイドブック（第2版）」を購入熟読してほしい。

修習技術者の研鑽は、専門分野は自己研鑽が主であるが、倫理面の育成の手助けが必要。そのための本部からの支援、九州支部での支援について具体的に話された。

議題⑥：活用促進を **Enhancement** と英訳しなければならないのは、知名度の低さを表している事から導入された。JABEEに対する取り組みでは、技術士会員がリーダーシップをとるべきであると強調。技術士会の沿革、組織について説明、世界の有資格技術士に比較し日本技術士会員の少なさ。リーダー的技術者は皆技術士という形にしたい。

「技術士ビジョン21」の概要説明があり。最後に本部にて講師が所属する業務委員会の運営方針について。特に技術士活用の今後の対策について、強調された。

今度の九州支部主催のCPD研鑽会は平成16年10月23日（土）です。

主題は、安全についてです。多数のご参加をお待ちしています。

I T化推進の現状と今後の方向

I T推進委員会委員長 大里 信義（化学、総合技術監理・北九州）

日本技術士会九州支部ではI T推進委員会が中心となり、昨今のインターネットの発達を利用して会の本部、支部と会員、会員同士などの情報交換の効率を上げ業務に役立てようとして活動を進めております。

先ず最初のステップとして今までのファックスによる支部からの広報（Iファックス通信）をe-mailが可能な会員についてはe-mailによる通信に切り替えていくことで作業を進めてまいりました。N T TのIファックス通信では一人一回当たり約20円のコストがかかっているのに対しe-mailの通信ではほとんど0円で済みます。

e-mailによる通信の仕方は以前にも申しあげましたように支部代表幹事、部会長を中継点とした階層型を志向しています。8月末をめどに切り替えをと考えておりますが諸般の事情で遅れがちとなっております。何度かテスト的な通信を行いますので皆様にはご迷惑をおかけすることもあろうかと思っておりますがご容赦ください。

このシステムが稼動した暁にはe-mailの通信の方には従来からのファックスによる情報は行きませんのでご注意ください。定期的にmailを見ていただくこととしメールアドレスが変わったら必ず支部正会員は本部登録情報の変更を、センター会員は支部事務局への変更を行っていただくことが必要になります。（自分に必要な情報は人から与えられるものではなく自分から獲得するものであるという姿勢が今まで以上に必要となってきます）講習会・講演会の出欠情報など会員から支部事務局などへの返信を要する場合は、広報文書の中にその発信者に返信先などの情報を入れてもらうつもりですのでそれに従ってください。

今までどおりのファックス通信を希望される方は、

今までどおり支部事務局からIファックス通信をいたしますが、先に申しあげましたように、コストと手間と後に述べますように情報量の差が生じますので出来るだけ早くe-mailによる通信に切り替えていただくようお願いします。（支部事務局へご連絡ください。） 今後は新しい会員については必ずe-mail通信をご承諾していただくようお願いするようになりたいと思っております。

今後は会員への広報は

1. 最重要な必要最低限の情報（月刊技術士、技術士便り、選挙公報など）は郵送による文書で全会員に
2. 中程度の重要度の情報（講習会、講演会など）はe-mailとファックスで
3. 役に立つ大量の情報はe-mailでメールマガジンタイプで

という3種類になると思われます。会員の中でも情報格差が生じる可能性があります。それはコストと手間の関係でいたし方がないことであるご承知いただければ幸いです。

本年度中かけてこのシステムを軌道に乗せ、次のステップとしては支部の正会員については本部の同報メールを利用した広報システムに移行するようにして、出来るだけ本部のシステムを利用する方向に向かうつもりです。

更に次のステップは会員同士の情報交換やコラボレーションが課題となりますが、セキュリティを考えながら効果をあげようとするれば、今のところどうしても本部の会員名簿情報を利用し、正会員限定利用システムに頼らざるを得ないようになってお思います。

今後ともよろしくご協力お願いいたします。

第32回 技術士全国大会のご案内

来年福岡で開催予定の技術士全国大会の概要についてご案内いたします。

日時：平成17年10月19～20日

場所：ホテルニューオータニ博多（福岡市中央区）

テーマ：技の連携・培う地域の新文化

記念講演：「海洋温度差発電」 上原 春男氏

佐賀大学海洋エネルギー研究センター教授（前佐賀大学学長）

分科会：第1分科会：アジアへのかけとし

第2分科会：環境保全と安全・安心の国づくり

第3分科会：地域振興とNPO法人との協働化

第4分科会：技術者倫理

第5分科会：青年技術士の活動



広報委員会からのお願い

広報委員会では、「技術士だより」を通じて支部及びセンター会員の皆様へ、最新の情報提供と会員の諸活動や意見をご紹介します。より魅力ある「技術士だより」を目指していくために、今年度の編集方針を皆様にお知らせし、積極的なご意見を賜りたいと考えております。また、次号（62号）から新しく「修習技術者の声」や「知識の窓」の紙面を設けることにいたしました。技術士を取り巻く環境を踏まえ、新鮮な話題にあふれた紙面を作っていくと考えておりますので、投稿のご協力をお願いいたします。

紙面構成

全体の構成と内容及び字数は、右側の表にまとめてあります。ここで、皆様から投稿をお願いしたいのは、

- **私の提言**
技術士としての考えや技術士会への提言等
- **地域だより**
各地区の技術士活動報告や地区の話題紹介
- **声の広場**
技術士個人として日ごろ考えていること全般
- **修習技術者の声**
新しく修習技術者になられた方の今後の抱負や疑問点等の声を紹介
- **技術情報**
最新技術等の紹介
- **知識の窓**
・私の秘めたノウハウや、日ごろ心がけていること等紹介

投稿は、メールにて九州支部広報委員会宛お願いいたします。（巻末のメールアドレス参照）

項目	頁数	字数	執筆者・内容	
1 巻頭言	1	1600	支部・センターの幹部・顧問	
2 私の提言	1	1600	執筆者選定	
3 本部近況	1	1600	理事会、支部長会議の議事録	
4 行事会合・委員会報告	2	3200	担当委員長、委員の実績報告	
5 部会・研修会報告	2～3	3200～4800	各部会長、部会員の実績報告	
6 CPD関連事項	1	1600	CPD事業報告、関連報告	
7 業務開発関連事項	1	1600	業務開発委員会検討事項	
8 IT推進関連事項	1	1600	IT推進委員会検討事項	
9 地域だより	2	3200	4地区ずつ地区委員が担当	年2回/地区
10 声の広場	2	3200	2地区各1名ずつ地区委員が執筆者選定	年1回/地区
11 修習技術者の声	0.5～1	800～1600	2地区各1名ずつ地区委員が執筆者選定	年1回/地区
12 技術情報・知識の窓	0.5～1	800～1600	最新技術や身近な話題（健康・趣味・秘めたノウハウ等）の紹介	
13 会員ニュース	2	3200		
14 賛助会員名簿	1	1600		
15 技術士主要目次他	1	1600		

九州支部第7部会発足のお知らせ

第7部会長 田辺 努（機械、総合技術監理・福岡）

1. 第7部会とは

技術士法改正等、昨今の技術士をめぐる状況の変化もあり、いよいよ九州支部においても青年技術士活動を第7部会という形で立ち上げることになりました。

本年6月の支部総会で承認され発足し、現在実質的な活動に向けて準備中という段階です。スケジュール（予定）を次に示します。

表 準備スケジュール

項目	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営委員確定	—		☆運営委員会開催 (10月予定)				
規約作成	—						
活動計画作成		—					
予算作成			—				
部会員全員 へのアナウンス			—				

2. 組織構成

九州支部第7部会の会員の基準は、社団法人日本技術士会九州支部又は九州技術士センターに属する満45歳未満の技術士、技術士補及び試験合格者ということで考えております（会員は200名強となる）。まだ発足したばかりなので、組織運営を行っていく中心メンバーを募っているところです。確定分のみ示します。福岡地区だけでなく、九州各県の代表幹事にも運営委員の選出のご協力をお願いしたところで、最終的には30名前後の体制とする予定です。

部会長：田辺 努

（福岡、機械・総合技術監理、J R九州㈱）

副部会長：久富 浩明

（福岡、情報工学、第一復建㈱）

同上：田上 健一

（福岡、建設、九州大学助教授）

運営委員：上杉 吉史（会計）

（福岡、建設、ライト工業㈱）

玉井 健司

（北九州、環境、北九州市環境局）

佐田英一郎

（福岡、建設、西鉄シーイーコンサルタント㈱）

堀内 満喜

（北九州、金属、日立金属㈱）

箴島 秀利

（長崎、化学、総合技術監理、西部ガス㈱）

山田 伸雄

（福岡、建設）

奥永 剛士

（北九州、電気電子・一次、J R九州㈱）

3. 活動内容（予定）

- 定例研修会の開催
- 講演会・見学会の開催
- 技術士試験協力、修習技術者指導・支援
- その他青年技術士としてふさわしい活動

特記事項として、来年（平成17年度）は、九州において10月19日に技術士全国大会が開催される予定であり、青年技術士活動の分科会も計画しておりますので、九州の青年技術士の皆様の多数のご協力・ご参加をお願いいたします。

4. その他

九州には、福岡青年技術士ネットワーク（平成4年発足）という任意組織もあります。こちらは主に福岡在住の50歳以下の技術士で構成されており、隔月の定例会、年1回の公開講演会等、活発に活動を行っています。今回発足した九州支部第7部会は福岡青年技術士ネットワークと連携をとりながら、活動を行っていくことにしたいと考えています。

第三部会技術研修会

ふたたび技術の安全性を問う

第三部会長 和田 洋二（金属・北九州）

8月9日の美浜原子力発電所3号機における復水配管破損蒸気噴出事故で4名の犠牲者が出たことは、人的被害が出たという点である。JCO臨界事故（1999年9月）とならび原子力関連施設の事故としてきわめて重大なものと思われる。

今回の事故では2次系配管の破損ということで重要性を軽視する向きもあるかもしれないが、ものづくりに関わる一技術者として、何よりも設備保全のための点検が1976年の運転開始以降まったく行われていなかったという事実（新聞およびTV報道による）に驚かされる。少なくとも私が体験し見聞きした範囲での原発建設工事における検査の厳しさとする意味で対極にあるずさんな保全の仕組みの下に発電所が動いていたのだなあ、という驚きと慨嘆を持って受け止めた。

原子力安全・保安院は全国の原子力・火力発電所の一斉点検を指示したが、その矢先に相馬共同火力新地発電所の給水加熱器ドレン配管蒸気噴出事故が報道された。これら発電所の発表によると、その他類似施設の複数箇所において「配管減肉の点検がされていなかった」という事実が明るみに出た。

美浜原発の事故原因は、今後第三者機関の専門家による調査によって明らかにされるであろうが、それ以前に発電所を運転する設置者としての自己責任を全うすべきではないか。つまり、電気事業法の問題である「設置者の自己責任による設備の安全性確保」を前提とする「技術基準の性能規定化」について、電力会社は、「点検リストから漏れていた」という言い訳をするのではなく、意に反して責任が果たせなかった事実を重く受け止め、プラントメーカーと協力して第三者機関をリードする調査を行い、早期に事故原因を究明するとともに調査結果の説明責任を果たしてもらいたい。

さて、第三部会では、6月5日、日本技術士会九州支部事務所において、H16年度の初会合を行い、

「代替天然ガス製造プロセスについて」と題して新メンバーである化学部門/箴島秀利氏から、また、「科学・技術とその社会性」という題目で金属部門/和田が講演を行った。

（1）箴島氏の講演から

全国で233のガス事業者が都市ガス供給事業を営んでいて、原料には輸入LNG、国産天然ガス、LPG、ナフサ等があり、供給区域を設定して一般需要者向けに導管を通じてガス供給を行っている。

都市ガスは、原料が異なればガス組成および発熱量が異なることから、一般需要者が使う器具もそれに適したものでなければならないという特色があり、「ウオッペ指数」によって都市ガスの性状を発熱量および比重を関数として定義している。この「ウオッペ指数」と「燃焼速度指数」の関係から良好燃焼範囲が規定され、これによって都市ガスの種類分けがなされ、ガス事業者の選択のよりどころとなっている。

代替天然ガス製造プロセスとは、各種炭化水素原料（石炭、原油、ナフサ、LPGなど）から天然ガスの性状に近いガスを製造するプロセスのことで、主工程は水素添加と炭素除去工程である。

事業環境としては、代替天然ガスは長期的に廃止される方向にあり、当面は、設備運転自動化によるコスト削減と環境対策が課題とのことだった。

（2）和田の講演から

近代科学と技術とは、誕生の出自がはっきりと異なる。今日、わたしたちの理解している意味での「科学者」は実は哲学者ではないのか。例えばコペルニクスやニュートンは科学者（何かの“科”を専門にする）ではなく哲学者（愛知者）であったと考えられる。科学の性格は自己閉鎖性と自己充足性にあり、かつて19世紀までの科学者の専門家集団にはクライアントが存在しなかった。

一方近代産業技術は、同時代に併行して進行していた科学の成立、また、研究の成果とはまったく無関係のところまで達成された。

その科学が大きな変質をきたしたのは、研究に対価を払うクライアントの出現であり、歴史的契機が第二次世界大戦前のマンハッタン計画にあるとのこと。（ニローズベルト・ヴァネヴァー・ブッシュ路線の成立）

危惧されるのは、現在もなお冷戦構造期の科学のあり方がわが国の科学・技術行政を席卷していて、「優れた」または「劣った」研究という言葉の危うさに一般の人たちは気がついていないのではないか。いわゆる“商品化される科学”と“技術移転”に大きな問題をはらんでいる。（参照：村上陽一郎「科学の現在を問う」）

地域だより

福岡

福岡シニア技術士ネットワーク (略称 F S P E) へのお誘い

運営委員長 真鍋 和義 (上下水道)

福岡地区には50才未満のグループとして、「福岡青年技術士ネットワーク」(F S G)があります。その影に隠れてあまり目立ちませんが、OB的グループとして50歳代の技術士で構成する任意のサロンのグループがあります。これが「福岡シニア技術士ネットワーク」(F S P E)です。平成12年7月22日に発足し4年が経過しました。会員の構成は満年齢が50歳代の福岡地区および近郊に勤務または在住する技術士としていましたが、現在は60歳代の方も交えて定例会を行っています。

定例会は2カ月に1回、原則として偶数月の下旬の木曜日午後6時半から福岡市中央区の福岡市文学館(旧名「赤煉瓦文化館」)にて行っています。

例会の内容はF S Gと同様に1分間スピーチ、業歴を主体としたノウフウ(KNOW WHO)、ホット

な話題という構成にしていますが、最近は出席者及び新しい加入者が減ってきたことにより、ノウフウ発表の該当者が少なくなったことなどから、会員による技術的報告を主体とし、残り時間に会員の近況報告のスピーチとし、CPDの一環と捉えています。また12月にはF S Gと共催で講演会等を開催しています。

現在の会員数は名簿上は約30名まで増加していますが、最近出席者が少なく、魅力あるグループであるためにはどうしたらよいのか模索しているところです。

福岡地区の皆様には、ぜひ我々の会へ参加いただき、盛り上げていただきたいと願っています。参加を希望される方は、私か事務局担当の久保川さんまでお知らせください。なお、会員への案内はEメールを基本としています。

真鍋 和義 福岡市下水道局中部水処理センター
TEL 092-721-4991

Eメール :manabe.k02@city.fukuoka.jp

久保川孝俊 九州電技開発(株)

TEL 092-533-5177

Eメール :kubokawa@dengi.co.jp

長崎

平成16年度の活動に向けて

地区代表幹事 大橋 義美 (建設、総監)

平成16年度の通常総会を、6月18日(金)36名出席の下に開催し、事業計画、予算案などについて審議の上承認されました。又、九州支部総会の報告などを行い無事終了しました。

総会にあたり、犬東会長より産学官の連携の中での技術士の役割、技術士会としての総合力UPのための会員の結束、不幸にして災害が発生した場合の対応などの重要性について、又、技術の研鑽等についての話がありました。会員全員の連携によって会の活性化につなげていきたいと考えています。

総会に引き続き研修会を実施し、①永濱伸也技術士(応用理学部門)による「EA21ガイダンス」。環境に対する取り組みが重要な中で中小企業においても取り組みやすい、環境省が進める環境活動評価

プログラム等について。②長崎大学工学部中村聖三助教授による「長崎大学土木構造学研究室における最近の研究紹介」。土木構造物の非線形応答解析、鋼構造物の設計・維持管理、防災まちづくりの研究について。両先生よりご講演いただき有意義な研修会となりました。

又、懇親会は、26名の参加があり会員の近況報告や会の活動、技術士の役割等、今後の活性化へ向けての意見交換等を行い盛会の中に終了しました。

ところで、地域における技術力の向上のためには、技術士の役割が重要となりますが、このため、(財)長崎県建設技術研究センター(NERC)内に会の事務局を置かせて頂き、センターと協力し土木施工管理技士会や技術関連機関・団体等、一般技術者との合同研修会やセミナーの開催等活性化へ向けての取り組みを検討しています。

この協力体制と合わせて、産学官の連携の中で技術士の活躍の場を創出し、地域に貢献でき、社会的に認識される技術士会となるような組織に前進して行く必要があります。今後、これらの実現のため会員各位と共に努力して行きたいと考えています。

北九州

北九州地区技術士会の活動状況

前北九州地区代表幹事

是永 逸生(機械、総監)

北九州地区技術士会は月例技術研修会の活動を中心にして、相変わらず活発に活動しています。

北九州地区以外で福岡や大分地区からの出席も定常化して来ています。技術士活動の原点として己の業績や意見・考えを公にする場として活用していたきたいと考えます。

ご承知のように技術士会の動きが大きく変化しています。その主なものとして、CPD活動や若手技術士の急増等が挙げられます。

北九州地区技術士会にも新しい新進技術士が続々と参入しています。新しい制度の下に修習技術者も参加しています。

これらの動きに対応する意味を含めて、平成16年8月度から代表幹事の交替を始め、地区幹事の入替及び業務担当の見直しを行ないました。

以下にその概要を紹介します。(敬称省略)

代表幹事 : 長崎

行事予定、議題設定 : 長崎、沼尻、西井

司会、運営、議事録 : 寺師、堀内、末松

会場手配運営 : 寺師

講演関係取纏 : 安西、副田

見学会、総会、忘年会 : 坂田、松原

会計、情報管理 : 坂田、玉井

新規に幹事を委嘱したのは、副田眞日止(化学)、末松正典(機械・総合)玉井健司(環境)の各先生方です。

一方、下記先生方は九州支部の役員及び個人都合により、地区の幹事から名前を除くことにしました。しかし、今まで同様に北九州地区技術士会のご指導をお願いします。

支部役員 ; 泉館、是永、大里、和田

個人都合 ; 垣迫、小柳

今年は新代表幹事の下で青年技術士部会や新しいCPD活動に積極的に参画すると共に、年末には好評であった一泊忘年旅行を計画しています。たくさん先生方が積極的に参画される事を希望します。

熊本

石の文化研究会の活動

熊本地区代表幹事 加来 雄一(建設、総監)

いま、熊本県の技術士会員が中心となり昨年より活動している「石の文化研究会」についてご紹介したい。本県は、熊本城の石垣や日本最大の石橋スパンの霊台橋、水路石橋でもある通潤橋等、国の文化財にも指定された石を利用した構造物が多く存在している。今なお数百年の時を経てその役割を果たしている石造物も少なくない。

しかしながら改築工事あたり石造構造物の構造計算方法が未確立な点もあり新しいコンクリート構造やその他の二次製品構造に改築され、石造構造物が新たに建設される機会が極端に少なくなっている。このため熟練の石工は次第に高齢化し現役の石工が激減し、需要の無い多くの石山は閉山し、結果として石材が高騰化し益々石構造の使用にブレーキをかけている。

このような情況が続く一方、石構造に対する再評

価も生じてきている。歴史性、馴染み、住民の公共施設への要望として従前の石構造の姿を残すことへのこだわりも生じてきている。自然らしさや環境に対するニーズが強くなっており、今後そのますますその傾向は増大することが予想される。確かにコンクリートは時代とともに風化する反面、石は時の経過と伴にその味がでて人の感性に響くものがある。

石の文化研究会はこれらの問題点、背景を専門的な立場で見詰め直す時期、時代にきているのではないかとこのテーマに取り組んできている。

県内の石造構造物の現状、使用された石材の産地特定、石山の位置、生産量、材質、伝統工法、確かな技術を踏襲している石工の所在、人数等、昨年より会員で手分けして取り纏め整理している。

新技術の開発と同時に一方には伝統技術をいかにして後世に伝承するかも我々、技術者の役割でもある。会の最終目標として石橋の復元計画にとりかかっている。大和時代大王の石棺としても重宝された馬門石で造られた石橋(災害で解体された)で多くの県民が協働参加することにより21世紀への石文化の継承に繋がれば幸いと会員一同考えている。

I

技術士試験と禁煙

竹内 良治

(水道、建設、衛生工学、総合技術監理・北九州)

1. はじめに

この奇妙な二つの組み合わせについて、前者は平成2年から、経験し、4勝2敗である。後者は、1敗1戦中である。禁煙の動機は、今年4月からの健康増進法の施行強化により喫煙者いじめが酷くなり、大都市では一日中タバコを吸う機会を考えなければならぬほど、アホな事態が生じそうなためである。事実、わが職場では建屋内（2F）の全面禁煙となり、本庁舎の喫煙箇所は15Fに対して4箇所となった。禁煙3日目に本庁喫煙室をそっと見物に行ったところ、腐敗水に繁殖するポーフラの大群にみえてしまった（見えなければ復煙）。

私の喫煙暦は20本*36年で、自分ではそれほど依存性が強いと思っていなかった（20年前、一ヶ月休煙は全く苦しくなかった）。

2. 技術士と禁煙の動機付け

民間コンサル会社の技術力は、技術士の人数等を点数化し、会社の技術力評価の主因（日経コン）とされている。一般に民間会社では、昇任用件などに使われている場合があり、入社直後から相当のインセンティブとなる。公務員においては老後の安心という弱いインセンティブとなり、退職直前に取っていた。しかし、今回の試験制度の変更で混乱しているようである（余談）。

禁煙に対するインセンティブは、官民の職差であり差はないと思われる。まず、「医者のご宣託」このまま続けますと、余命〇年ですという最高の恐怖からくるもので、最も強い。次に、喫煙の有害性をよく理解すること。「イヤー大体分かっていよ」と9割の喫煙者に思わせている日本の喫煙政策は、先進国中、最高の愚民政策である。

そこで私は、有害性の勉強を徹底することとした。テキストは「禁煙セラピー」、「5日間でタバコをやめる本」、HP「喫煙者を救え」の三品である。この三冊で怒りは十分であった。ニコチン、タールは知っていても、虚血性心不全、COPD、肺気腫、バージャー病、副流煙の有害性（江藤淳の奥様）の

内二つ以上ご存知での喫煙者は豪傑である。

3. 禁煙実施

平成16年4月1日、ニコチンガム等の助剤にも頼らないハードランディングを試みた。「地獄の三日目、希望の四日目」も無事過ぎた。1ヶ月後は、5月GWにご褒美として「四国遍路10日間」に出た。タバコを吸いたいと思わないが、体のだるさが抜けない。土曜、日曜は陸に上がったクラゲ状態であった。

自分のだるい症状について市役所の保健士さんと相談の上、心療内科を受診する。結果、軽いうつ病と診断され、抗うつ治療を続けることになった。薬は前述の著書「5日間で・・・」で紹介されていた薬を希望した。

二週間後の再診で、薬の効き具合を聞かれたので、今ひとつの感じであり、NHK「ためして合点」で紹介されていた薬を処方してもらった。夕食後一回、服用をしたところ、心拍数120、吐き気、ムカつきで一睡もできず、翌日、元の薬に戻してもらった。

話題の薬を、サイトで見てみると、合わない人は副作用が酷く、断薬には禁煙以上の苦労と、劇症があるようである。私の戦況は、前門の狼（禁煙）、後門の虎（断薬）となってしまった。

4. 生兵法は怪我の元

平成2年の技術士試験は、講習会も受けず、受験場にもたどり着けなかった。その経験も生かせず、書籍2,3冊で禁煙を達成しようとは無謀（自分が思っていたより依存性が高かった）であった。ニコチン大魔王は、脳内でご苦勞さん物質、おりこうさん物質、さあやろ物質など元氣印物質の役割を演じていたことを実感する。イラン戦争以前のイラク・フセインのような存在である。現在、私の脳はフセインなきバクダッドとなった。20年以上の喫煙であれば、技術士試験に講習会を薦めるように医療による禁煙をお薦めしたい。今年の二次試験の受講生の中に総合技術監理もとられた方がいた。受講理由を伺うと、餅つきは餅屋に習うものと、参った。

前述の著者いわく「禁煙は人生最大の挑戦である」といわれていたが、技術士試験も同様である。また、両者とも奥様、先輩技術士及び非喫煙者以外、密かに失敗を期待しているところも興味深い。

子供のIQを10下げ、奥さんの肺がん発生率を倍にするタバコなど今すぐ上手に止めましょう。今回の経験で、禁煙クリニックを開業できそうである。

II

総合技術監理部門の受験と私の夏

田口 修（応用理学、建設・大分）

総合技術監理部門の受験を開始して3年が経過しました。未だ思うような成果を出せず今年も受験の夏を迎えています。

振り返ると、平成11年に38歳で応用理学部門の技術士に合格し安堵したのも束の間、平成12年の技術士法の改正で総合技術監理部門が創設され、再び受験に取り組まなければならなくなりました。しかし、技術士になって数ヶ月過ぎた頃から技術文書が書けなくなるという症状に襲われました。それまで1日に30～40ページの報告書を書いていた私にとって、業務に対する不安と同時に、「こんな状態になる前に技術士になっていて良かった」という2つの思考が交錯しました。

症状から、パニック症候群のような強迫神経症だったように思います。体質の改善を模索していた時、ある医療のホームページに“不安をおそれず、むしろ不安の発生を期待して待て”という姿勢で過ごすすと良い」と説明していました。早速実行してみると確かに症状が徐々に改善しました。また、緊張で血管が収縮するため血流改善の薬（コレステロール低下剤）を服用し、平成14年初頭には以前の調子を取り戻すまで回復しました。

平成14年、前哨戦として8月に建設部門を受験しましたが、10月の総合技術監理部門は不合格でした。翌年の平成15年も結局合格通知は届きませんでした。

「このままではいつまで経っても合格は無理かもしれない」という焦りの気持ちが芽生え初めた平成16年4月、技術士会九州支部の総合技術監理部門受験講座の文字が目に入りました。沢山の受講生がいるだろうと大急ぎで申し込みましたが、実際に会場に行くと数名だけで、正直なところ拍子抜けでした。

しかし、マン・ツー・マン形式での講義や添削を受けられることはラッキーだったといえます。講義は九州支部の事務所でスクーリングが3回、ほぼ1日間みっちりと授業がありました。内容は5管理の要点解説と、技術社会が抱える問題点の抽出、それ

に記述式答案の添削などです。時間不足の場合は電子メールなどでアフターフォローして頂きました。

この受講の際に講師から、「これまでの19部門とは記述のポイントが違う！総合監理は広い視野を持ち、誰でも理解でき、しかも要点は確実に押さえるマネジメントが必要」と、総合技術監理の本質についての指摘がありました。過去に客観的な指摘を受けることがなく、総合技術監理とは何かよく理解できていなかった私は、この言葉に新設部門が何を求めているのかを垣間見たような気がしました。

話は異なりますが、私は趣味として居合を学んで現在5段です。高段者が同じような話をしてくれました。「一人練習では自己流になる。優れた先達から指導を受けた普通人が最終的には上達する。素直な人ほど上達は速い。」ということです。講座を受講して居合道と技術士という全く別の世界でも人間のナレッジには共通性があることを感じました。

8月7日、いつものように受験会場に到着すると、見慣れた人や、かなり高齢の方たちが同じように受験に望んでいました。昨年は病院から抜け出して受験に来られていた田中支部長にお会いし「凄いですね」と声をかけたことをふと思い出したりもしました。

自己採点では、何でもないようなミス、思いがけない得点、狭い視野や勘違いした論述など、まだまだ勉強が不十分と反省しています。結果的には今年も合格は難しく一時は意気消沈しましたが、これも「もっと勉強しろ」ということと思い、また勉強材料を探し始めた自分自身に少しだけ応援しています。

平成16年度 技術士第二次試験筆記試験 福岡会場 受験状況

【8月7日 [総合技術監理部門]】

受験 申込者(人)	受験者数 (人)	欠席者数 (人)	受験率(%)
549	391	158	71.2

【8月8日 [総合技術監理部門以外]】

受験 申込者(人)	受験者数 (人)	欠席者数 (人)	受験率(%)
1,735	1,111	324	64

会員ニュース

☆(社)日本技術士会(九州支部) 入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段:連絡先/下段:勤務先) (連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ)		
熊本	正会員	吉村 勉	航空宇宙	〒862-0903 熊本市若葉2-9-14シティマンション若葉402号 崇城大学宇宙航空システム工学科	☎(096)365-5930 FAX(096)326-3000	
福岡	正会員	大川 秀喜	電気電子	〒838-0814 福岡県朝倉郡三輪町高田920 光陽無線(株)システム技術課	☎(0946)26-0284 FAX(092)593-6860	
佐賀	正会員	宮副 一之	建設	〒849-0302 佐賀県小城郡牛津町大字柿樋瀬582-33 (株)九州構造設計	☎(092)593-6861 ☎(0952)66-1597 FAX(0952)29-2503	
長崎	正会員	義満 宏文	建設	〒857-0351 長崎県北松浦郡佐々町須崎免501-14-301 旭測量設計(株)測量設計部	☎(080)3175-2171 ☎(0956)73-7050 FAX(0956)73-7055	
福岡	正会員	満安 政幸	上下水道	〒816-0983 大野城市月の浦1-17-1-201号サンリャン月の浦 (株)サンコンサル設計部	☎(092)595-6473 ☎(092)582-1290 FAX(092)573-6247	
福岡	正会員	林 満男	農業	〒811-1361 福岡市南区西長住1-7-7-308 (株)西研設計	☎(092)553-2830 ☎(092)524-0755 FAX(092)524-0670	
長崎	正会員	陣野 政輝	森林	〒850-0003 長崎市片淵3-13-1 (社)長崎県林業コンサルタント	☎(095)820-1686 ☎(095)861-0190 FAX(095)861-5023	
長崎	正会員	津田 隆信	森林	〒854-0081 長崎県諫早市栄田町48-42 (社)長崎県林業コンサルタント	☎(095)725-0970 ☎(095)861-0190 FAX(095)861-5023	
熊本	正会員	津山 輝男	応用理学	〒862-0918 熊本市花立5-7-16 (株)熊本総合技術コンサルタント	☎(096)360-4505 ☎(096)385-7170	
福岡	正会員	岩部 良子	応用理学	〒811-1302 福岡市南区井尻3-24-12進藤ビル404号 応用地質(株)九州支社還計画部	☎(092)589-4884 ☎(092)591-1840 FAX(092)573-0242	
鹿児島	準会員	竹内 康二	生物工学	〒891-0203 鹿児島県揖宿郡喜入町喜入8234-14 日本澱粉工業(株)糖化製造部	☎(0993)45-2834 ☎(099)269-1011 FAX(099)269-2654	
長崎	準会員	毎熊 元	農業	〒854-0081 長崎県諫早市栄田町17-28 長崎県島原振興局農林部	☎(0957)26-7696 ☎(0957)63-0111 FAX(0957)63-1092	
北九州	準会員	竹田 一平	資源工学	〒803-0181 北九州市小倉南区大字呼野1211-1 三菱マテリアル(株)東谷鉱山	☎(090)4968-0396 ☎(093)451-0132 FAX(093)451-0256	
北九州	準会員	相羽 俊生	化学	〒806-0043 北九州市八幡西区青山1-2-7三菱化学第3驚田寮3 菱化システム管理本部	☎(090)2966-5602	
福岡	準会員	藤井 誠	建設	〒814-0112 福岡市城南区友丘2-1-11エルソレイユ友泉301号 西日本技術開発(株)	☎(092)801-2284 ☎(092)781-1454 FAX(092)781-6748	
鹿児島	準会員	松村 智浩	建設	〒891-3706 鹿児島県熊毛郡南種子町島間2156 南種子町役場農地整備課	☎(0997)26-4357 ☎(0997)26-1111 FAX(0997)26-0708	
福岡	準会員	角 一三	建設	〒811-1102 福岡市早良区東入部2-19-2	☎(092)804-3071	
鹿児島	準会員	森永 哲郎	生物工学	〒890-0081 鹿児島市唐湊1-13-10-310	☎(090)5383-1068	
福岡	準会員	伊東 博史	建設	〒812-0017 福岡市博多区美野島1-18-8エステートモア博多グラン101 (株)アーバンデザインコンサルタント西日本	☎(092)471-4160 ☎(092)431-0341 FAX(092)431-0365	
福岡	正会員	出本 剛史	建設	〒818-0024 筑紫野市原田7-9-3メゾン・ド・ポータII番館203号 (株)オリエンタルコンサルタンツ九州支社	☎(092)926-6485 ☎(092)411-6209 FAX(092)411-3086	
福岡	正会員	石倉 昇	建設	〒810-0005 福岡市中央区清川2-11-3ロイヤル天神南1303号 (株)オリエンタルコンサルタンツ	☎(090)1047-9951 ☎(092)411-6209 FAX(092)411-3086	
長崎	正会員	酒見 和幸	衛生工学	〒811-4175 福岡県宗像市市田久416-23 (株)九電工長崎支店	☎(0940)33-9745 ☎(095)840-0810 FAX(095)840-0821	
熊本	正会員	野澤 仁志	農業	〒861-3206 熊本県上益城郡御船町大字辺田見266-1 愛知設計	☎(096)282-7633 ☎(096)292-7633 FAX(096)282-6397	

大分	正会員	藤澤 孝 農	業：〒870-0303 大分市字里935 大分県大野土地改良事業事務所	☎(097)593-2760 ☎(0974)34-2271	FAX(0974)34-2309
福岡	準会員	竹本 裕蔵 建	築：〒818-0036 福岡県筑紫野市光が丘5-11-1 都市企画センター(株)	☎(092)552-5145	FAX(092)927-2440 FAX(092)552-5146
長崎	準会員	岩永 洋 建	設：〒852-8026 長崎市金堀町37-17 長崎市役所道路公園部	☎(095)829-1172	FAX(095)861-5895 FAX(095)829-1235
長崎	正会員	古賀 克志 建	設：〒850-0861 長崎市江戸町1-17新江戸町ビル501 (株)ジオックス	☎(095)857-2922	FAX(095)823-4152 FAX(095)857-3396
北九州	正会員	福田得三郎 機	械：〒822-1201 福岡県田川郡金田町大字金田919-1 鹿島建設(株)	☎(0947)22-3748	
北九州	正会員	堀田 源治 機	械：〒804-0021 北九州市戸畑区一枝2-6-1A203 (株)日鉄エレクトックス技術管理部	☎(093)288-5337	FAX(093)884-9771 FAX(093)288-5955
北九州	正会員	日置 猛 金	属：〒804-8505 北九州市戸畑区大字中原46-59 新日本製鉄(株)pmd製鉄PE第2部	☎(093)872-6992	FAX(093)872-6689
福岡	正会員	寺田 俊朗 建	設：〒812-0018 福岡市博多区住吉4-3-2 日本工営(株)福岡支店技術部		
福岡	正会員	足立 俊一 建	設：〒811-3425 福岡県宗像市日の里8-15-3	☎(0940)36-0537	
福岡	正会員	杉 正一 建	設：〒830-0032 福岡県久留米市東町42-21日本生命ビル 水資源機構筑後川局	☎(0942)34-7001	
福岡	正会員	木暮 攻 建	設：〒819-0005 福岡市西区内浜1-3-16エスペランサ姪浜401号 パシフィックコンサルタンツ(株)		
福岡	正会員	谷口 正博 建	設：〒819-0013 福岡市西区愛宕浜4-5-13 (株)長大 福岡支店構造計画部	☎(092)472-3952	FAX(092)881-5511 FAX(092)413-6630
大分	正会員	足達 謙二 建	設：〒877-0201 大分県日田郡大山町大字西大山482-1 水資源機構大山ダム建設所		
宮崎	正会員	白坂 敏夫 建	設：〒880-0864 宮崎市吾妻町164グランビューあづま605 玉野総合コンサルタント(株)宮崎支店	☎(0985)26-5414 ☎(0985)29-9623	
鹿児島	正会員	久米 卓 建	設：〒899-0202 鹿児島県出水市昭和町4-10アネックスローズ307 (株)みともコンサルタント	☎(0996)62-3187 ☎(0996)62-2221	
福岡	正会員	太田 敬一 建	設：〒816-0941 福岡県大野城市東大利1-3-1サニーマンション502 日本工営(株)福岡支店技術部	☎(092)871-2092	FAX(092)591-4995 FAX(092)871-2022
長崎	正会員	西村 博崇 建	築：〒856-0027 長崎県大村市植松2-426-7 (財)長崎県建設技術研究センター	☎(0957)54-1600	
熊本	正会員	山梨 紘栄 建	設：〒862-0962 熊本市田迎3-7-5-202号 カンセイコンサルタント(株)	☎(096)378-0878	
福岡	正会員	納富希志夫 建	設：〒819-0043 福岡市西区野方2-44-5 パシフィックコンサルタンツ(株)	☎(092)885-5008	FAX(092)812-6632 FAX(092)885-5004

☆九州技術士センター入会

宮崎	正会員	柳田 正三 農	業：〒880-0945 宮崎市福島町寺山3072-2 宮崎県土地改良事業団体連合会 農村建設農村計画課	☎(0985)24-3022	FAX(0985)51-0961 FAX(0985)29-9107
福岡	正会員	野村 正二 建	設：〒812-0044 福岡市博多区千代4-17-29 日本地研(株)	☎(092)571-2764	FAX(092)651-4010 FAX(092)571-2813
福岡	正会員	白石 均 建	設：〒810-0044 福岡市中央区六本松3丁目7-29-501 西日本建技(株)	☎(092)441-7676	☎(092)761-8041 FAX(092)441-1005
福岡	正会員	黒川 昌寿 建	設：〒814-0171 福岡市早良区野芥1-27-8 (株)エフディイー	☎(092)771-1434	☎・FAX(092)801-1437 FAX(092)735-4377
福岡	正会員	中山 義彦 建	設：〒813-0131 太宰府市水城4-4-15 (株)スギヤマ	☎(092)611-0200	☎・FAX(092)925-6082 FAX(092)925-6621

☆会員連絡先（住所）および勤務先変更

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(変更)			
福岡	正会員	末廣 孝義	建設	連：〒879-0111	中津市大字伊藤田272		☎・FAX(0979)33-1535
福岡	正会員	牛垣 徹	建設	勤：〒810-0064	福岡市中央区地行2-10-20		
					(株)明和エンジニアリング	☎(092)736-2266	FAX(092)771-9618
大分	正会員	箴島 昇	建設総合	勤：〒878-0026	竹田市大字飛田川3478-1		
					(株)豊西測量設計	☎(0974)63-1526	FAX(0974)63-0774
福岡	正会員	深沢 朗	建設	連：〒819-0052	福岡市西区下山門2-4-3 サンシティアゴラ生の松原501		☎(092)885-6736
福岡	正会員	長崎 孝博	衛生工学	連：〒814-0123	福岡市城南区长尾3-9-3-206		
				勤：(株)九電工資材部購買課		☎(092)523-6336	FAX(092)524-3259
福岡	正会員	田中 衛	衛生工学	勤：〒814-8501	福岡市早良区百道2-1-1		
					早良区総務部企画課	☎(092)833-4326	FAX(092)846-2864
宮崎	正会員	出水 芳文	建設	勤：〒885-0032	宮崎県都城市中原町6街区7号		
					(株)都城技建コンサルタント	☎(0986)23-0803	FAX(0986)23-1537
鹿児島	正会員	宇都 祐治	農業	連：〒899-0207	出水市中央町1425-3		
宮崎	正会員	朝日 輝	建設	勤：〒880-0926	宮崎市月見ヶ丘7-14-2		
					(株)晃和コンサルタント	☎(0985)51-5818	FAX(0985)51-5900
鹿児島	正会員	山本 隆利	建設	連：〒	鹿児島県薩摩郡宮之城町轟町4-1		☎(0996)52-1460
				勤：〒	鹿児島県薩摩郡宮之城町轟町4-1		☎(0996)52-1460
					国土交通省鶴田ダム工事事務所	☎(0996)59-2030	FAX(0996)59-2994
福岡	正会員	安恒 万紀	建設	連：〒810-0064	福岡市中央区地行4-2-14		☎・FAX(092)731-9378
福岡	正会員	三原 節夫	上下水道	勤：〒812-0007	福岡市博多区東比恵3-28-10		
					(株)東亜コンサルタント	☎(092)415-1313	FAX(092)431-5331
福岡	正会員	平 信雄	上下水道	勤：〒811-1344	福岡市南区三宅2-17-10		
					(株)白石総合コンサルタント 福岡支店		
福岡	正会員	矢野 友厚	建設	勤：〒849-0937	佐賀市鍋島4-10-6		
					国際技術コンサルタント(株)	☎(0952)31-3653	FAX(0952)30-1925
福岡	正会員	光岡 毅	建設	勤：〒815-0083	福岡市南区高宮5-2-5 FKK高宮ビル		
					九州建設コンサルタント(株)福岡支店	☎(092)526-3251	FAX(092)526-3291
福岡	正会員	執行 孝幸	建設	勤：〒815-0083	福岡市南区高宮5-2-5 FKK高宮ビル		
					九州建設コンサルタント(株)福岡支店	☎(092)526-3251	FAX(092)526-3291
大分	正会員	日野 健次	建設上下水道	勤：〒870-0911	大分市新貝12-51		
					九州建設コンサルタント	☎(097)551-6211	FAX(097)556-8461
長崎	正会員	大山 豪	森林	勤：〒850-0063	長崎市飽の浦町5-3		
					(社)長崎県林業コンサルタント	☎(095)861-0190	FAX(095)861-5023
福岡	正会員	片山 善仁	建設	連：〒819-0007	福岡市西区愛宕南1-3-3 ロマネスク室見川203		☎(092)885-2280
鹿児島	正会員	吉原 睦巳	建設	連：〒890-0069	鹿児島市上荒田町36-5-807		☎・FAX(099)254-3867
熊本	正会員	桑畑 俊郎	農業	連：〒861-8045	熊本市小山2-10-58		☎(090)7450-9896
福岡	正会員	林 正治	上下水道	勤：〒819-0167	福岡市西区今宿1-1-28		
					福岡市都市整備局伊都区画整理事務所	☎(092)807-2201	FAX(092)807-2204
長崎	正会員	高木 辰治	建設総合	連：〒857-0333	長崎県北松浦郡佐々町中川原免69-6		☎(0956)62-0905
					藤永地建(株)	☎(0956)23-9141	FAX(0956)22-0539
熊本	正会員	溝下 康之	農業	連：〒865-0065	玉名市築地763-1 グローリッチ202号		☎(0968)72-1105
				勤：九州農政局玉名横島海岸保全事務所		☎(0968)84-4151	FAX(0968)75-3010
福岡	正会員	中禮 清孝	建設	連：〒819-1314	福岡県糸島郡志摩町大字師吉56-27		☎(092)327-5739
福岡	正会員	福岡 泰彦	建設	連：〒839-0863	久留米市国分町1512-4 レシオ荻原302		☎(0942)21-5869
大分	正会員	松崎 和夫	建設総合	勤：〒870-8504	大分市荷揚町2-31		
					大分市役所都市計画部都市交通対策課	☎(097)537-5690	FAX(097)536-7719

御協力いただいている 賛 助 会 員

……………〔福岡〕……………	日本技術開発㈱	西日本コンサルタント㈱
日本総合コンサルタント㈱九州支店	大和コンサル㈱	東洋測量設計㈱
㈱建設環境研究所	アジアエンテニアリング㈱	九建設計㈱
㈱唯設計事務所	……………〔北九州〕……………	日進コンサルタント㈱
日本建設コンサルタント㈱九州支店	日本航測㈱	ダイエーコンサルタント㈱
中央開発㈱九州支社	大村技術士事務所	……………〔宮崎〕……………
㈱ダイヤコンサルタント九州支社	㈱九州設計事務所	㈱弓場水工コンサルタント
日本工営㈱福岡支店	九和設計㈱	㈱ロードリバーコンサルタント
昭和地下工業㈱	㈱都市開発コンサルタント	㈱ケイディエム
第一復建㈱	㈱松尾設計	㈱親協
㈱松本組	㈱酒見設計	南日本総合コンサルタント㈱
㈱エスケイエンジニアリング	㈱太平設計	㈱宮崎産業開発
㈱東亜コンサルタント	冷牟田設計コンサルタント㈱	㈱西田技術開発コンサルタント
㈱福山コンサルタント	山九㈱鉄鋼事業本部鉄鋼技術部	㈱福島測量設計調査事務所
㈱東京建設コンサルタント九州支店	㈱安川電機	九州工営㈱
東亜建設技術㈱	㈱中村測建事務所	正栄技術コンサルタント㈱
精巧エンジニアリング㈱福岡支店	環境テクノス㈱	㈱東九州コンサルタント
東邦地下工機㈱	……………〔佐賀〕……………	㈱日豊測量設計事務所
大成ジオテック㈱	㈱精工コンサルタント	日測コンサルタント㈱
富洋設計㈱九州支社	新九州測量設計㈱	㈱水理設計
九州建設コンサルタント㈱福岡支店	西日本総合コンサルタント㈱	㈱ダイワコンサルタント
㈱サンコンサル	日本建設技術㈱	㈱白浜測量設計
㈱橋梁コンサルタント福岡支社	㈱九州構造設計	㈱杉田測量設計コンサルタント
㈱アイ・エヌ・エー九州支社	新栄地研㈱	南興測量設計㈱
㈱九州地質コンサルタント	……………〔長崎〕……………	㈱アップス
㈱タイヨー設計	大栄開発㈱	㈱カツキ技術士事務所
日鉄鉱コンサルタント㈱九州支店	㈱実光測量設計	㈱共同技術コンサルタント
㈱大建	西日本菱重興産㈱	㈱国土開発コンサルタント
㈱エム・ケー・コンサルタント	大洋技研㈱	㈱外山測量設計コンサルタント
㈱エス・ビー・エンジニアリング	㈱親和テクノ	㈱都城技建コンサルタント
新地研工業㈱	㈱新栄設計事務所	㈱第一テクノコンサルタンツ
㈱カミナガ	……………〔熊本〕……………	……………〔鹿児島〕……………
平和測量設計㈱	㈱九州開発エンジニアリング	中央テクノ㈱
㈱高崎総合コンサルタント	アジアプランニング㈱	朝日開発コンサルタンツ㈱
西日本コントラクト㈱	……………〔大分〕……………	㈱久永コンサルタント
西鉄シーイーコンサルタント㈱	松本技術コンサルタント㈱	コーアツ工業㈱
町田電気管理・技術士事務所	協同エンジニアリング㈱	大協㈱
日本地研㈱	㈱日建コンサルタント	㈱建設技術コンサルタンツ
第一設計㈱	東亜コンサルタント㈱	
九州環境技術研究所	九州特殊土木㈱	
西日本技術開発㈱	大洋測量設計㈱	
㈱富士ピーエス	九州建設コンサルタント㈱	

「技術士ビジョン21」

平成16年6月に「技術士ビジョン21」(社団法人日本技術士会)が策定されましたので、その概要についてお知らせいたします。この冊子についてのお問い合わせは九州支部事務局までお願いします。

日本技術士会は、21世紀における技術士の位置づけと役割を明確にし、技術士法に定められた科学技術に関する高等な応用能力の保持、所定の義務と責

任の履行、社会への貢献、そして社会的信頼と地位の確保等を支援する責任があります。

本ビジョンは、①21世紀の技術士像を明確にすること、②業務独占資格でない技術士の職業的位置づけを行うこと、③技術士の義務と責任を明確にし、社会的信頼を得ること、④一人ひとりの技術士は自己責任の原則のもと、これを支援するための日本技術士会の役割を明確にすることを基本として策定しました。(「技術士ビジョン21」より引用)

会誌“技術士”最近の主要目次

[P E] 技術士6・2004

- ・グローバル化に対応した技術者資格への期待／伊藤源嗣
- ・技術者倫理のすすめ／浜田哲夫
- ・最近の事務所ビルにおける空調省エネルギー技術の動向／高草 智
- ・二酸化炭素の炭層への固定／出口剛太
- ・生き物としての人間復興／中村桂子
- ・技術士試験に関する改善提案(中間報告)／都丸徳治
- ・日本弁理士会の研修制度について／大西正悟

[P E] 技術士7・2004

- ・事業再建は技術力の発揮から／金井久雄
- ・東北支部「技術者倫理」研修・啓蒙活動の過去・現在・将来／江原英雄・小野寺文昭
- ・建設業におけるフランチャイズビジネスの展開／相馬 裕・鈴木信行
- ・感性(五感)情報と技術／廣瀬通孝
- ・公認会計士の継続的専門研修制度／一法師信武
- ・修習技術者のための修習ガイドブック(第2版)の解説／岩熊まき

[P E] 技術士8・2004

- ・循環型社会における技術士の役割／樋口壮太郎
- ・世界の安全規格の動向と技術士の役割／長崎治夫
- ・環境にやさしいバイオマス火力発電／岩佐照久
- ・下水処理場におけるエストロゲンの挙動とその数値解析／清水 慧・石井正敏
- ・ベンチャー支援に期待される技術士／青山和正
- ・弁護士としての継続教育／春日秀文
- ・技術士制度改革と報酬委員会の役割／植村勝

編集後記

この夏のアテネオリンピックでの日本人の活躍には目を見張るものがあり、感動的なシーンが数多くありました。柔道、体操、マラソン、シンクロスイミング等々。

結果は様々でも、それぞれの選手がオリンピックという明確な目標を掲げ、この日のために4年間ひたすら練習に打ち込み、日々改良に改良を重ねてきたこと自体がすばらしいことだと思います。

さて、技術士の皆さんは、いかになる目標と期限をお持ちでしょうか。ややもすると日々の仕事に追われがちの方も多いのではないでしょうか。

技術士会では「技術士ビジョン21」を策定し、目標を掲げております。自分なりに捉えやすい目標と期限を明確に掲げ、日々の努力を積み重ねることが大切です。季節も秋に入り、過ごしやすい季節に入ります。今一度、自分の目標を見つめなおしてみませんか。(棚町)

発行：(株)日本技術士会九州支部
九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎(092)432-4441
FAX(092)432-4442

E-mail : engineer@joho-fukuoka.or.jp
九州支部ホームページ URL :

<http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer>
センター： ☎ / FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社